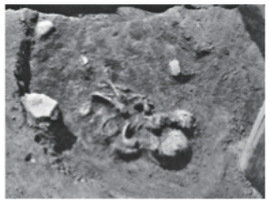
秋津
あさひば
史跡・文化財・字マップ

1 沼山津遺跡

これまで9か所で発掘調査が行われている。縄文時代早期（約7500年前）の押型文土器や縄文時代後期（約4500年前）の阿高式土器等が出土している。また、平安時代（約1200年前）の竪穴住居も複数確認され集落が広がっていた。注目される遺物は緑釉（りょくゆう）陶器（中国の青磁を模して緑色釉を施している）で、有力者の存在を窺わせる。現在の山口県産である。写真は平安時代初期のもので、墨書土器。「永」と読める。

2 下津代里遺跡

熊本市史には弥生土器が見つかったとの記述があり、熊本市の遺跡地図には範囲が示されている。しかし熊本市教育委員会による何度かの試掘調査でも一度も遺跡は確認されていない謎の遺跡である。



3 沼山津貝塚

かねてより周辺は「貝原（きゃあばる）」と呼ばれていたが、昭和43年秋津浄化センター建設に伴う発掘調査で小児人骨や貝製品、阿高式土器等とともに縄文時代後期の貝層が確認された。標高は5.5m、縄文海進時の海岸線は現在の標高5m付近と想定されており、入江に面した地点であった。

4 江津湖遺跡群

湧水を求めて、江津湖周辺には様々な時代の遺跡が展開した。現動物園付近は県内最初に稲作が開始された地点と考えられる。江津湖公園（広木地区）周辺の台地上には、弥生時代後期（約1800年前）の集落が広がり、住居跡や家畜小屋、環濠（防御用の溝）などが確認されている。

5 沼山津神社

祭神 伊奘諾尊（いざなぎのみこと） 伊奘冊尊（いざなみのみこと） 速玉男之神（はやたまおのかみ）。「奉納」と記した石柱に「当熊野宮ハ浮島熊野宮分霊大永二年（1522）九月六日勧請同神殿再建元文五年（1740）十月十四日成就」とあり、浮島権現(浮島神社）の分霊。9月9日子ども相撲奉納。吉田司家座（通称追風座）といわれるしめ飾りは三社（⑤⑨⑩）独特。

6 竹内神社

祭神 少彦名神（すくなひこなのかみ）。もと「年彌社」と呼ばれていたが、明治以降竹内神社と呼ばれる。牛馬の神として、農家の信仰が厚く、奉納された絵馬すべて馬の絵である（さびれて何枚かは失われている）。別名「馬ん神さん」。手水鉢（ちょうずばち）に「天保八年(1837)当村若者中」の銘あり。もとは、東無田（秋田配水場東側辺り）にあった。

7 光輪寺（通称「上（かみ）の寺」）

浄土真宗本願寺派／本尊　阿弥陀如来。山田入道正信の開基とあるが、年代は不明。小西行長肥後領国の時代に焼かれ、文禄3年（1594）に再建されたと伝えられている。明治12年（1879）7月「千福庵」から「光輪寺」に改められた。熊本地震で被災。令和3年再建。

8 浄福寺（通称「下（しも）の寺」）

浄土真宗本願寺派／本尊阿弥陀如来。天正年間（1573～1591）の兵乱時に堂宇等すべて消失したが、当時の住職慈観が辛うじて仏像のみを土中に埋め置き、その後小堂を建立して本尊を安置（現在⑫薬師堂に）。明治12年（1879）7月「浄光庵」から「浄福寺」に改められた。熊本地震で被災。令和3年再建。

9 中無田熊野座神社

祭神 伊奘諾尊 伊奘冊尊 速玉男之神。秋津村誌によると慶長18年（1613）の創始（浮島熊野座神社分霊）。昔から、中無田の鎮守の神様として信仰が厚い。社殿は天保七申年（1836）の改築とも伝えられている。本殿内の柱には、西南戦争時の、いわゆる西郷弾痕が打ち込まれたままになっている。

10 西無田雨宮神社・猿田彦大神

祭神 伊奘諾尊 伊奘冊尊 速玉男之神。天文元年（1532）井寺村熊野宮（浮島熊野座神社）を分霊。創建当時は若葉6丁目11番1号の「神屋敷」に建立されていた。元文元年（1736）現在地に遷宮、安永7年（1778）改築される。境内に猿田彦大神（みちびきの神、道開きの神）も祀られている。

11 妙見社（妙見さん）

「妙見さん」と呼ばれ、俗に「火の神さん」とも言う。男女神像各二体（二対）の神が鎮座されている。江戸中期に祀られたものと考えられる。熊本地震により被災し、平成30年に再建。

12 中津代里薬師堂（通称：堂ん前の観音さん）

二体の仏像が安置されている。左の厨子は、薬師如来立像で、右手は下にさげて与願印をとり、左手に薬壺を捧げている。右の厨子に、聖観音座像である。薬師堂の二仏は、往時の浄福寺の御本尊と思われる。平成30年に再建。かつて観音堂の前では縁日が行われていた。（⑧に関する仏像も安置）

13 下津代里稲荷社

一木像の女神座像が安置。像の底面に「嘉永八卯二月一日奉彫刻仏師宮武（花押）」の墨書銘がある。この女神像を納めたと思われる木箱の正面には「勧請宇迦之御魂神」、右側面には「明治十四年（1881）二月吉祥日 沼山津神社祀掌古賀喜三太藤原辰臣」と墨書されている。（現在赤い鳥居はない）

14 鶯観音堂

甲斐宗運の一族甲斐正運入城して先ずここに開基したのが法光寺。1587年秀吉九州征伐時に正運降参し寺は焼失。同地に1588年清正公が放光庵建立。現在の鶯観音堂につながる。明治初期土地改正まで、鶯の地は、託麻郡健軍村に属していた。中無田地区の鬼門除け。

15 野間薬師堂

野間の薬師堂と言われている。お堂は昭和 50 年（1975）9月に改築されているが、年代などは不明。お堂の前の手水鉢は、明治38年（1905）11月12日に寄進されている。薬師像：木造 円光背 印相薬壺印。元は西無田地区の鬼門除け。

16 新村天満宮（通称：新村の天神さん）

お堂は第5公民館の改築の際、現在地に移転改築。神殿に、天神、観音菩薩の二体が祀られている。六嘉村（現嘉島町）の一部が水害に耐えず集落で安住の地を求めて移転し、「新村」と呼ばれた。秋津新町はそれに繋がる町名で、当時の苦労を今に伝えている。天神は移転した人々の守り神として祀られたのであろう。

17 三宝大荒神

木造瓦葺きの小堂に三宝大荒神が祀ってある。御神体は神棚の中に安置されていて、外部から拝見することは出来ない。堂内に「新築昭和57年（1982）1月吉日」の墨書あり。

18 突井戸水神

昭和18年（1943）5月に水田用水の突井戸工事が完成したことを記念して、昭和27年（1952）5月に建立された水神。田への水引の苦労が、この突井戸により20町歩にわたる灌漑に成功。「畑苗代」から「田苗代」が可能に。芳名記載し功績をたたえてある。
※1町（ちょう）＝3000坪≒1ha（10000㎡）

19 沼山津水神

建立は明治5年（1872）。敷地は、南面7.25m 東面6m 西面3.43m 北面7.78m 高0.7mのブロック塀の囲いがしてあり、水神としてはかなり大きな造りである。元秋津川堤防上にあったが河川改修で現在地に移転された（昭和57年頃）。小振りの鳥居が正面に建てられている。

20 中無田石塔水神

水神　罔象女神（みずはのめのかみ）を祀る。それまで水面下で荒れ地だった所を文化6年（1809）に計路の田開きがなされ、それを感謝して天保6年（1835）に建立されたと碑文にある。元々、裏井手上流端の字（あざ）「計路（けろ）」の中程にあったものを昭和55年（1980）圃場整備事業で現在地に移転。

コラム

7つの水神（水神セブン）とお地蔵ストリート

縄文時代には有明海が湾入したところであった秋津川南側には、平成6年終結の圃場整備事業（マップ69）によりとても美しい田園風景が広がっています。しかし、1603年～「江津塘」（清正の治水事業）が作られて以降、秋津地区は水害の常襲地へ。水との闘い、苦労が大きかったと思われます。あさひばの地域に水神が7カ所祀られている水神信仰にその願いが表れているようです。また、度重なる飢饉から乳幼児の死亡率が高く、地蔵菩薩に救済を求めるためか、お地蔵さまが多く17カ所も祀られています（秋津校区14 若葉校区3）。

21 中無田間島水神

水神　罔象女神（みずはのめのかみ）を祀る。文化5年（1808）戊辰（つちのえたつ）10月建立。赤井川（現木山川）矢形川の旧合流点の川州にあったものを、昭和8年（1933）河川改修で字（あざ）「月の輪」に移転。昭和55年（1980）圃場整備事業で現在地に再移転されている。

22 西無田間島水神

秋津川と木山川の合流地点堤防上の水神。
縦1.2m　横1.2m　高さ24cmの基礎。更に幅55cm　横50cm　高さ30cmの台座を置き、その上に幅48cm 高さ53cmの自然石の水神が祀られている。表に「昭和2年（1927）」、裏に「間島」の銘がある。

23 中無田野間橋際水神

秋津川野間橋際の堤防上に祀ってある。碑文に「水神　大正十年四月再建」と記されているのみで、記録伝説がなく詳細不明。再建としてあるので何かの理由（水害等）で無くなり、再建されたものと思われる。

24 西無田水神

若葉6丁目8番の南側の水田の角に、二柱の水神が祀られている。左側の水神は、自然石で無銘。右側の水神は、南面に「寶暦元年創設 明治三十三年三月十二日 百五十年祭改修」と刻まれている。もとは何処にあったのか不明。圃場整備で現地にまとめて移転されたものと思われる。

25 上津代里 外村組地蔵

沼山津の通称「外村（ほかむら）」の道角にある地蔵。本尊は一木像の地蔵立像で、岩座上の蓮華座上に立ち、右手に錫杖を持ち、左手を前に出す形である。台座裏には「安政六年末（1859）八月下旬 国家安全奉願上 光輪寺源□」と墨書銘がある。

26 上津代里 内村組地蔵

台座上に蓮華座があり、中央が盛り上がっている舟形光背を持つ石地蔵が立っている。舟形光背高91cm 仏高70cm 肘張25cm 肩幅23cm 顔高18cm 顔幅10cm。大きめの地蔵で痛みも少なく綺麗。建立年月日不明。堂内に「昭和五十六年（1981）九月吉日改修」とだけある。

27 中津代里 東小路地蔵

中津代里の旧道沿いには三つの石地蔵がある。旧会所跡の井戸のある所の南側に入る小路に建てられ、舟形光背高73cmで、13cmの台座がある。地蔵は身高37cmの立像で光背に「寛政五癸丑（1793）三月日、若者中建立」とある。

28 中津代里 光岡氏方地蔵

舟形光背を持った石地蔵立像が、高さ58cmの台座基礎、高さ6cmの蓮華座の上に安置されている。舟形光背高さ50cm 地蔵の身高さ34cm 肘張12cm 顔高9cm 顔幅6cmである。光背に「戊寅文化十五年（1818）五月吉日 弥富」と刻してある。

29 中津代里 中小路地蔵

3段積みの石垣の上の石屋形（現在なし）の中に鎮座されている。以前設置されていた石の花立には「仲正路組」（中小路組のこと）とあった。本体は舟形光背の中に像を彫り、「慶応三卯（1867）十月廿四日」の紀年銘がある。

30 中津代里 西小路地蔵

地蔵は、舟形光背の中に蓮華座を刻み立像地蔵が彫り出されており、全高49cm 身高29cm 肘張12cm 肩幅8cm　顔高8cm　顔幅6cmで、52cmの内台座上に立っている。香台に奉納としてあるだけで、他に文字は見えない。熊本地震後に元の場所の向いに移転再建。

31 下津代里 北村組地蔵

建立は安永6年（1777）2月吉日。舟形光背をもつ石地蔵が両手に宝珠を捧げ立っている。光背迄高さ69cm 蓮華座11cm 身高さ35cm 肘張12cm 肩幅10cm 顔高9cm　顔幅7cmである。西沼山津の若者により建立。（平成31年3月再建）

32 下津代里 須崎組地蔵

建立年月日 明和元年（1764）9月。下津代里稲荷社の西、道角を曲がったすぐのところに一小堂があり、舟形光背を持つ地蔵石像が安置されている。顔面は磨耗しているが、両手に宝珠を捧げた立像で、蓮華座の花弁は二重に縁取りされている。

33 中無田 上の丁下組地蔵

舟形光背・合掌印の石地蔵立像が安置されている。舟形光背全高46cm 蓮華座高9cm 地蔵の身高24cm 肘張り9cm 肩幅9cm 顔高6cm顔幅5cmである。台座は、高さ25cm 幅31cm 奥行30cm。年代は不明、大正末頃と思われる。

コラム

地蔵まつり

災害や疫病が今以上に深刻な昔、子ども達の無病息災を願いお地蔵様をまつり、お供え物をしたことが始まり（江戸時代）と考えられています。以前は、あふれるほどのお花をたむけられたお地蔵様の前に集まった子ども達にお菓子や果物が配られるなど、子ども達にとって待ちに待った行事で、それぞれのお地蔵様の前でにぎやかに行われていたようです。秋津校区では、11月24日頃、現在も地域の方が地蔵の像を清め、新しい前垂れを着せ、供え物などをされています。

34 中無田 上の丁上組地蔵

舟形光背・合掌印の石地蔵立像が安置されている。建立年月日は、安永７年（1778）甲戌（戊戌）２月吉日。舟形光背全高さ86cm 内蓮華座高12cm 地蔵の像高さ38cm 肩幅15cm 顔高9cm 顔幅6cmである。

35 中無田 下の丁地蔵

舟形光背・合掌印の石地蔵が立っている。建立年月日は、明和９年（1772）辰稔（たつとし）正月吉日。蓮華座共で舟形光背全高80cm 地蔵の身高58cm 肘張13cm 肩幅13cm 顔高10cm 顔幅7cmである。大正10年（1921）6人の世話人が花立を奉納。

36 新村地蔵

天明５年（1785）乙巳（きのとみ）吉日建立。舟形光背全高さ101cm 地蔵の身高さ37cm 肘張11cm 顔高8cm肩幅10cm顔幅7cmである。蓮華座幅30cm 高さ15cm。台座幅30cm 高さ15cm。祠（ほこら）は、大正12年（1923）に改修されており同年７月７人の世話人が手水鉢を奉納。

37 西無田 間島地蔵

明和三年（1766）と刻まれている。印相は薬壺印、衣を彩色してある。舟運が盛んな時代に「間島」に住んでいた人達が、舟運が衰えまた水害がひどくなり住み難くなってこの付近に移住してきたとのこと。もと「間島」にあったものか、また移住後創建されたのか不明。

38 上津代里石造物

沼山津4丁目5番に堂宇と１基の石碑がある。台座の上に、総高さ93cm 最大幅28cmの自然石の表面を高さ41cm 幅19cmに彫り凹めて平面をつくり、「大歳之大神、護孫明神」と記されている。「農作業の神」として敬神されている。令和2年再建。

39 光永家墓地跡(＊)

光永氏は阿蘇氏の一族と称し、中世末下陣城主となり、近世には在地豪族として寛永の頃より明治に至るまで沼山津・木倉・布田・高森などの諸手永の惣庄屋をつとめた家柄である。板碑群の後方一帯に中世から光永氏代々の墓が一群をなして建っていた。しかし、これらの墓も、県道拡幅工事に伴ってまとめて納骨堂式に改葬され、堂ん前の観音さんと並んでいた。（「手永」は㊻参照）

ー中津代里墓地と板碑群(＊) ー

既に改葬されているが、光永家を中心とした墓地であった。この墓地の南西隅には戦国期の板碑（供養塔）４基が西向きに建てられていた。阿弥陀系の天文9年（1540）碑・釈迦三尊系の天文11年（1542）碑・永禄12年（1569）碑と無銘碑で一カ所に集中しているのはめずらしいとされた。

40 下津代里 彼岸花地蔵(＊)

石祠の中に舟形光背をもつ地蔵立像を安置。光背には、寛政5年（1793）癸丑3月日・弥富氏□□とあり、この石祠はもと貝塚に安置されていた。おそらく貝塚を開墾中に人骨を掘り当てたため、弥富氏が施主となって供養の地蔵を建立したものであろう。昭和45年（1970）消失・現存しない。

41 新村の弘法大師

弘化３年（1846）建立。新村の弘法さんと言われて、字「境塚」（現在の東野４丁目２番町付近）の「やんぼし塚」にあったものを、昭和９年（1934）字「水溜」（現在の秋津新町）に移設して祀っていたが、戦後住宅化の進展に伴い、さらに水玉公園内に移設。

42 西無田馬頭観音・聖観音・地蔵

三体が並んでいる。（向かって左から）馬頭観音（舟形光背の立像全高58cm、仏像高39cm）・聖観音（中央奥の一段高いところ。仏像全高54cmの小さな金箔張りの木像）・地蔵（光背高78cm、立像高41cm。光背に「奉寄進 宝暦二年（1752）壬申（みずのえさる）二月 西無田若者中」とある。

43 西無田馬頭観音•仏像•地蔵

三体並んでいる。（向かって左から）馬頭観音（舟形光背の仏像高34cm）、仏像（蓮華座の上に仏像高39cm、右手は胸の前に鉢杵の座像）、地蔵（細長い石の上部を刳って座像を彫ってある）。弘化３年（1846）など記されている。熊本地震後右の地蔵は破損。現在なし。

44 四時軒・横井小楠記念館

横井小楠が安政２年（1855）から明治元年（1868）までの13年間に実質８年８カ月居住。坂本龍馬を始め幕末に活躍した多くの人々が訪れ、彼の教えを受けた。小楠顕彰の気運が高まり、小楠記念館が昭和57年竣工。熊本地震で被災した四時軒は令和５年２月１５日再建。

45 秋津村役場跡（秋津支所跡）(＊)

明治22年（1889）沼山津村と秋田村が合併して『秋津村』が成立。村名は、秋田の「秋」と沼山津の「津」をとり、日本の古名「あきつ島」になぞらえて命名されたという。昭和29年（1954）熊本市に合併するまで村行政の中心であった。その後秋津支所、現在は秋津第2公民館。

46 沼山津手永会所跡(＊)

手永（てなが）制は、細川家がその領地に導入した行政制度。領内を「手永」と呼ばれる行政区画に分けて村を束ね、責任者として惣庄屋を置いた。肥後藩の御蔵のあった川尻とは、加勢川でつながっており、会所のすぐ南には舟場があり、沼山津会所は、地形的にもよき条件を具備していた。明治3年（1870）廃止まで地区の中心地。光永氏11人が惣庄屋を務めた。

47 沼山津村元標跡(＊)

沼山津村は明治8年（1875）から22年（1889）までの村名。明治８年（1875）に上益城郡の東沼山津村・西沼山津村が合併して成立。沼山津村元標は、本村字中津代里千七百七十一番堂床前・西小路地蔵の角地（現在の沼山津３丁目13-7）に設置されていた。

48 沼山津校跡(＊)

沼山津小学校（沼山津3丁目11-43）は、明治7年（1874）から明治22年（1889）3月まで設けられていた村民共立小学校。郡村誌に「・・・生徒数男三十人・女九人」と記されている。明治22年（1889）市町村制が布かれて、秋田・沼山津の二つが合併して秋津村となる時に現在の秋津小学校の場所に秋津尋常小学校（明治24年改称）設立。

49 沼山津舟場跡(＊)

会所跡より南へ約150ｍの川辺に舟着き場があった。昭和23年頃までは石段があって、昔の名残りを残し、集落の人々の洗濯場であった。すぐ近くには土蔵もあった。江戸時代は舟による米・木材・日用雑貨・肥料などの運搬で重要な役割りを果していた舟問屋も沼山津には2軒あって隆盛をきわめたらしい。

50 上田龍三郎先生の碑

かみだりょうさん（通称）は、沼山津の中でも、指折りの資産家で一時村長もしておられた。石油開発目的で掘削したが、出たのは石油ではなく大量の水。本来の目的は果たせなかったが、周辺の人達の洗い物等の生活用水と30町歩の灌漑用水となった。当時、沼山津には計り知れない恩恵をもたらした。（秋津第1公民館敷地内）

51 小楠公園

園内には「横井小楠の墓（髪塚）」と、小楠没後50年の記念事業として大正7年に建立された「小楠先生頌徳之碑（皇室からの御下賜金もあった）」がある。また没後百年を記念して昭和45年（1970）2月に横井小楠顕彰会が建立した「小楠銅像」もあり、原型は小楠記念館に展示されている。没後毎年2月中旬に墓前祭が行われている。（令和5年2月15日に第154回目の墓前祭が行われた）

52 追分石

沼山津神社より北東約500m。益城町広崎との境界に「追分け」という地名のある処がある。地元の人々が花立往還と呼んでいる凹道の木山往還と佐土原からの凹道（木山町道）との交差点に縦109cm幅35cmの自然石に「右すなとり、左ぬやま津」と刻まれた追分石がある。追分石は、かつて2つに割れ、2mの高土手に横たわっていたが、地域の宅地化に伴って復旧されている。

コラム

横井小楠と沼山津

昭和29年秋津村は、熊本市との合併を決定しました。その時、15の事項(要望)を熊本市へ提出しました。その第一番目は、「横井小楠の旧宅・墓地等の管理保存」に関することでした。四時軒を構えこの地を愛した維新の先駆者を大きな誇りとしていた地域の方の思いが伝わってきます。写真は2019年に横井小楠顕彰会が、生誕210年・没後150年の記念企画で作成した「横井小楠先生かるた」です。読み札の文は秋津小6年生が作成。秋津公民館内で貸出可。

各タイトルに(＊)がついているものは現存しない文化財です

53 花立往還（木山往還-熊本往還）

「木山往還」は熊本方面から見た呼び名。地元木山では熊本方面に向かう道として「熊本往還」、花立の地元では「花立往還」と呼んでいた。字花立と北花立、桜木と杉本の境を通っていた。木山・熊本間3里の往還であった。※往還：主要道路※1里：約4km

54 三菱青年学校跡・井関農機工場跡(＊)

太平洋戦争中、現在の東本町地区には、三菱航空機製作所建設に伴い、昭和18年中堅技能者養成の付属青年学校も建設され、一帯は畑地から一大変貌する。戦後井関農機（株）熊本製作所として操業。現在は、税務大学、東区役所、自衛隊病院など。

55 昭和町桜並木（イセキ桜）

若葉排水路沿いの桜並木は、昭和27年（1952）秋に、井関農機熊本製作所の技能者養成工第一期生20名の手により植えられたもの（当初70本）。桜並木の北側「東本町」は、かつて農業機械専業メーカーの井関農機の工場であった。現在は益城町安永で操業。

56 鶯城跡(＊)

「永禄８年（1565）阿蘇大宮司家　益城郡御船城主甲斐民部大輔親直（宗運）　託麻郡竹宮に鶯城築きその与力 甲斐飛騨守正運を以て居城せしむ」（上益城郡誌）。御船城の出城であった鶯城も、現在では、城跡の窪地：「うっぽげ」と言われる鶯川周辺の地形や鶯観音堂からしか往時をしのぶことはできない。

57 鶯川の堰跡(＊)

小さな堰が2カ所あった。字（あざ）「天神木（てんじんぎ）」あたりに約150cmの幅の堰。この堰の水は流域の水田を養い、またこの地域は数少ない貴重な田苗の苗床であり、特に有意義だった下流の堰は小学校の南西あたりで川が西に曲がっているところ。河川改修にともない取り壊された。

58 秋田校跡(＊)

慶応年間秋田村では、吉住桂蔵が寺小屋を開いていた（男25名）。明治7年（1874）から明治22年（1889）3月までの村民共立小学校（野間原、秋津１丁目２番付近）。明治22年の秋田村と沼山津村の合併まで続く。郡村誌には、生徒数男41人・女33人と記載。秋田校建設と維持には三藤家の家運を傾けての支援があった。

59 秋田村元標跡(＊)

秋田村は明治10年（1877）から22年（1889）までの村名。明治9年（1876）3月上益城郡の中無田村・西無田村・下無田村と託麻郡健軍村のうち野間が合併して成立。秋田村の元標は、本村字（あざ）「野間原（のまばる）」2046番地宅地の前、（現在の秋津1丁目2番20号）に設置されていた。

60 耕地整理記念碑

昭和４年（1929）字「塘下」が堀が多く低湿田だったので、字「貝原」の畑の土（秋津小南側）を木山川（現秋津川）を越えてトロッコで運び、嵩上げ耕地整理をした記念碑である（耕地整理時多数の石斧などが出土）。碑は昭和42年（1967）に建立。

61 秋田堰跡(＊)

野間橋から下流へ100mぐらい下った位置、熊本市水道局の水道管の辺り。秋田堰は「板堰」であり、田植えの時期がくれば一度も休むことなく「堰かけ」が行われ、先達から次の時代へと継承されてきた。昭和61年に秋田堰は撤去された。※『豊穣』に詳細あり。

コラム 東野の地名

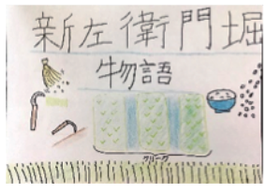
東野中学校（昭和37年・1962年開校）の校名は、万葉歌人「柿本人麻呂」の「東（ひむがし・ひむかし）の野に炎（かぎろひ）の立つ見えて かへり見すれば 月傾きぬ」の「東の野」からとり当時の教育長が命名したようです。その後、学校周辺の地名が校名の「東野」という住居表示に変更されました。東や南側の広々とした水田や飯田山麓が続く景色がこの歌のイメージと重なったのでしょう。

62 新左衛門の墓と記念碑

新左衛門の墓は、七年忌に当たる文化元年（1804）に、相撲の門弟によって建立されたものであろう。野間橋のすぐたもとの旧道の側にあったが、昭和４１年に現在碑のある所に移転された。記念碑は、昭和33年（1958）5月に建てられた。記念碑には新左衛門の偉業をたたえる内容が記されていた（現在文字は見えない）。

63 しんじゃ堀の堰跡(＊)

寛政年間、時の庄屋新左衛門がこの排水路を掘った時代に作られたものと伝えられている。高さ1.2m、1間幅の堰が２つあった。石組の作りで天変地異にもびくともしないような頑丈な作りであった。圃場整備事業着工（昭和55年）まで使用※『豊穣』に詳細あり。



64 新左衛門堀（しんじゃ堀）跡(＊)

万蔵井手の北側に並行して、間島の処に達している「しんじゃ堀」があった。寛政の初期(1790年頃)、中無田の庄屋八重桜新左衛門の事業によるものでその名があり、堀は長さ422間・幅5間・深さ5尺（長さ約760m 幅9m 深さ1.5m）。その恩恵をこうむる田地20町歩。※詳細『あさひばの歴史』※写真は令和元年秋津小4年1組の児童が学習のまとめとして作成した紙芝居。

65 計路堰跡(＊)

裏井手にあった計路堰はその名のごとく、計路（けろ）方面の水田を養っていた。この堰はしんじゃ堀の堰より川幅が広いだけに大きかったらしい。戦後何回か架けられていたが、いつの頃からか計路の樋門の開閉によって水の調節が行われていたとのこと。※『豊穣』に詳細あり。

66 舟運の中心 間島

中無田の野間橋を渡って、六嘉～御船県道を南へ約200m間島橋付近のことである。間島は、藩政当時舟運の中心であった。山西・戸島方面の物資が、戸島往還によって運ばれ、ここから川尻に送られた。また、間島から東無田・新川を上って赤井に達する舟航もあり、明治の初めまで白い帆かけ舟が往来していた。

67 万蔵堀（万蔵井手）跡(＊)

万蔵堀は、木山川と秋津川との間にあって、沼山津橋より南へ凡そ1000mの地点を上流広安（現益城町）から西へ、中無田境に達している。文化年間（1804～1817）、荒木万蔵（当時の会所役人か）の手によって掘削されたもので万蔵井手とも呼ばれている。※写真は万蔵堀の北側に掘られた幹線排水路。県道小池竜田線の新万蔵堀橋付近。

68 裏井手跡(＊)

万蔵井手・新左衛門堀（しんじゃ堀）の井手を裏井手に導いて、下流西無田方面に流したのは嘉永年間（1848～1853）の惣庄屋河瀬安兵衛の嗣子 典次（小楠の門弟）の力による。安兵衛は、19代（1845～1859）の沼山津手永の惣庄屋。

69 圃場整備記念碑「豊穣」

昭和から平成にかけて15年にわたる圃場整備の大事業を記念して、平成6年（1994）土地改良区内に記念碑が建立された。碑文には、先人の長く続いた水との闘いの苦労と整備事業後の喜びが記されている。※『豊穣』に詳細あり。

70 突井戸跡(＊)

昭和16年（1941）は世界大戦中でこの事業には多大の苦心があったが、関係役員の並々ならぬ努力によって完成。灌漑実に20町歩に及んでいる。現地に建立された石碑に芳名を録して永久にその功をたたえてある。畑苗から田苗を作ることができるようになった。

71 秋津村道路元標跡(＊)

会所もあり、沼山津手永の行政の中心であった字「上津代里から中津代里・下津代里」を東西に走る古くからの道沿いの秋津村役場前に『秋津村道路元標』が設置されていた。大正の道路法によって、「大字沼山津下津代里1525番地（現秋津校区第２公民館前）」に設置されたもの。

72 沼山津堰跡（マップ外）(＊)

沼山津堰は、益城町福富方面にあったということで、石積みの極めて大ざっぱなもので、毎年築直しには多大の労力と少からぬ資材を要した。昭和28年（1953）５月、災害復旧事業として着工した。

73 秋津第二土地区画整理　竣工記念碑

区画整理の対象は、桜木、花立、東野、沼山津辺り。工期は昭和38年～58年。付近一帯は3m程の高低差がある畑地・不整地であったが本事業完成により、整備された道路、公園、広場、緑地、宅地となり整然とした市街地となった。写真は旧竣工記念碑。現在の碑は平成5年新設。

「あさひば」は、秋津公民館管内地域の愛称（2001年～）

「あ」秋津　「さ」桜木　「ひ」桜木東　「ば」若葉

この地域は豊かな自然に囲まれ、多くの文化財や著名人を輩出した歴史のあるところです。地蔵などもたくさんあります。水害や凶作、苦悩の多かった時代に村の守り仏・神として、救いを求めて作られたと思われます。平和な現代でもその信仰は地域の方が代々引き継いでおられ、いつ訪れても花がたむけられています。やさしい心、ぬくもりが感じられます。

このマップを、ふるさとへの理解や愛着を深めるきっかけとして活用していただければ幸いです。

【参考資料】※秋津公民館図書室で閲覧できます。
・『ふるさと秋津（あさひば）の歴史』　・『豊穣』
※マップのデジタル版には、その他の写真も掲載しています。
また、字界線が表示されていない「あさひば史跡・文化財マップ」もあります詳しくは、秋津公民館のホームページをご覧ください。

秋津公民館ホームページ

令和5年3月　第2版　秋津公民館　096（365）5750

各タイトルに(＊)がついているものは現存しない文化財です